



野生動物による農作物被害対策

佐野市では、イノシシ・シカ・サル・ハクビシンなど野生動物による農作物被害が発生しています。これらの動物の隠れ場所や出没原因をなくさない限り、被害は減少しません。今回は、被害が発生する原因と、地域の皆さんでできる対策などをご紹介します。

《被害を起こす動物》

種 類	能 力	食 性	活 動 時 間
イノシシ	跳躍力 1 m	雑食	基本的に昼間だが、人間のいない時間を選択
シカ	跳躍力 2 m	草食	夕方から明け方
サル	優れた知能	雑食	昼間
ハクビシン	どこでも登る	果樹・野菜	夜間

《主な出没原因》

- ・やぶや耕作放棄地の増加により、農地や集落近くまで出没できる
- ・収穫しない野菜や果樹（放任果樹）、農地に捨てられた生ゴミなどが野生動物の餌となる
- ・水稻のひこばえ（二番穂）が野生動物の餌となる



動物の行動域を拡大させ、無意識に餌付けをしていることが多い

野生動物は、一般的に臆病なため、姿を見られることを嫌います。そのため、野生動物が潜むことのできるやぶや草むらを刈り払うことが非常に効果的だといわれています。

《個人でできる対策》

- ① 隠れ場所をなくすため、自分で管理している山や農地の雑草を刈り払う
- ② くず野菜などは外に捨てない
- ③ 放任果樹はできれば伐採する
- ④ 果樹は、速やかに収穫するとともにトタン板を巻き付けて登れないようにする
- ⑤ 電気柵は通年設置し、野生鳥獣に入れない農地だと認識させる（※補助制度あり）
- ⑥ サルが出没したら、ご近所の方と協力して追い払い、人間の怖さを学習させる

《地域でできる対策》

- ① 連帯感をもって獣害対策に取り組めるよう、地域内の出没原因を一緒に探る
- ② 山林所有者の承諾を得たうえで、山すそのやぶを刈り払い、出没しづらい環境を整える（※補助制度あり）
- ③ 山林所有者の承諾を得たうえで、金属製の網（ワイヤーメッシュフェンス）を山す所に張り、イノシシの出没を防ぐ（※補助制度あり）



②と③を組み合わせると
効果は大きい

＜補助事業メニュー紹介＞

農山村振興課では、皆さんの獣害対策のお役に立つ補助事業を行っていますので、導入のご要望がありましたらご相談ください。

●明るく安全な里山林整備事業……山すそのやぶを払う事業です

「明るく安全な里山林整備事業」は、「とちぎの元気な森づくり県民税」を財源とした5年間の事業です。導入1年目は市が主体（町会などの森づくり活動団体による整備も可能）となり、荒廃した里山の除伐や下草刈りなどを行い整備します。2年目から5年目の4年間は、森づくり活動団体が補助金を受け、下草刈りなどの維持管理活動を行っていきます。

●電気柵購入補助事業……佐野市有害鳥獣被害対策協議会の事業です

野生動物による農作物被害を受けている個人農業経営者、農業生産法人、集落営農または営農集団より購入希望を取りまとめ、電気柵を一括購入し、購入代金の半額を補助します。

●ワイヤーメッシュフェンス整備事業……佐野市有害鳥獣被害対策協議会の事業です

集落規模のワイヤーメッシュによる侵入防止柵を整備しようとする団体に対し、材料支給による助成を行います。

補助事業を導入された地区代表者の声

団体名 三好地区有害鳥獣被害対策協議会 代表 亀山春夫さん
導入事業 明るく安全な里山林整備事業・ワイヤーメッシュフェンス整備事業
会員人数 約500人



イノシシなどの野生動物は、餌を求めて時には家の庭先までやって来ます。安全な生活のために、三好地区では獣害対策を身近なところから始めることにしました。

やぶの刈り払い、休耕地の手入れ、補助事業の導入やその後の定期的な見回りなどを積み重ねていくことで、野生動物から生活圏を守ることができます。地域全体で協力して取り組むことによって、地域のきずなも深まっていくと思います。

団体名 赤見町駒場町会 代表 芝宮治さん
導入事業 明るく安全な里山林整備事業・ワイヤーメッシュフェンス整備事業
会員人数 約120人



多くの住宅が山すそにある駒場町会では、話し合いを始めてすぐ獣害対策に乗り出しました。獣害は対岸の火事ではありません。「自分たちの生活に係わる問題だ」と、全員が共通の認識を持つところから獣害対策はスタートします。

野生動物が姿を隠せる場所はないか、餌になるようなものが放置されていないか。野生動物が生活しにくい地域づくりは、私たちの生活しやすい地域づくりでもあります。

■問合せ 農山村振興課 ☎(61)1163